

## まえがき

メコン河を流れる黄褐色の水、雨期でぬかるんだ道路、豊かな森林、水牛が農作業を手伝う熱帯の田園風景、オレンジ色の袈裟をまとった修行僧、……。 「メコン地域」と聞いて、そんな長閑な情景を心に思い描かれる人も少なくないかも知れない。「東アジアの奇跡」とまで賞賛されたシンガポールやマレーシアなどのASEAN原加盟国では、首都ではモノレールがビルの合間を通り抜け、大型コンテナを積んだトラックが工業団地と港を結ぶ高速道路を走る、そんな躍動感が溢れる世界が存在するのに対し、メコン河が流れるカンボジア、ラオス、ミャンマーといった国々には、「開発」という言葉からはほど遠い世界が多く存在する。ベトナム戦争をはじめとする紛争、社会主義経済から市場経済への移行などの事情を考えると、アジアNIEs、ASEAN原加盟国、中国など東アジアの主要国が経済発展を遂げるなかで、この地域はまさに「残された東アジアのフロンティア」であるといえよう。

しかし、このメコン地域にもようやく経済発展の波が及ぶのではないかと思わせるニュースが、アジア通貨危機以来、再びここ数年で増えているように思える。まず、2004年11月には、小泉首相がASEANの域内格差是正のため、メコン地域支援で426億円の円借款供与を表明している。また、2005年6月には、ベトナム中部の都市フエとダナンを結ぶ国道1号線の難所といわれてきたハイバン峠のトンネルが円借款で開通し、この区間の輸送に要した時間が大幅に短縮されるようになった。また、1994年にオーストラリアの援助で建造されたピエンチャンとタイのノンカーイを結ぶメコン河の友好橋に続き、タイのムクダハーンとラオス第2の都市サワナケートを結ぶ第2メコン国際橋も、円借款により2006年末にも開通するといわれる。ハイバン・トンネルと第2メコン国際橋は、ともにアジア開発銀行のイニシアティブで進められているインドシナ半島を東西に結ぶ「東西経済回廊」の鍵となる区間の一つといえる。この東西経済回廊が結ばれた暁には、南シナ海のダナン港（ベトナム）とアンダマン海のモーラミヤイン（ミャンマー）が陸路で結ばれることとなり、太平洋とインド洋、中国とインドとの間の輸送が相当程度改善されることとなる。無論、東西経済回廊が通る区間は、山間部が多く、この区間がインドシナ半島の大動

脈となるには更なる投資が必要ではあろうが、10年先ないしは20年先の夢は大きく膨らむ。

本書は、メコン地域でも後発国に属するカンボジア、ラオス、ミャンマーといった国々の経済発展を、域内で相対的に経済発展の進んだタイ、中国雲南省、ベトナムとのリンケージにおいて、いかに促すかを主眼として検討してきた経済協力支援基礎調査事業の「メコン地域開発研究分科会」の研究成果をまとめたものである。研究成果とはいえ、この地域の国々の研究者のみならず、ビジネスや援助を通じてこの地域に関わられる方々、またこの地域に関心をもたれる学生の方々など、できるだけ幅広い読者層を念頭に、わかりやすくまとめることを心掛けてきた。メコン地域が6ヵ国にまたがることから必然的に多くの地名が本書では出てくるが、本文中の地名に関してはそのほとんどを地図に載せるとともに、索引にも載せている。地図に関しては、目次の後にメコン地域全体の地図と、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム、中国雲南省の地図を掲載するとともに、第1章、第5章、第10章ではそれぞれの目的に応じた地図を掲載している。また、地名に加え、人名など固有名詞もアルファベット名とともに索引に示したほか、略語を上述の地図の後に挿入した。読者の方々には、これらを参照しながら本書を読み進めて頂ければ、より一層の理解が深まるものと思われる。ただ、本書が読者のニーズにどこまで応えることができたのかについては、読者の方々のご指摘並びにご批判を仰ぐこととしたい。

本書をとりまとめるに際しては、数多くの方々のお世話になった。まず、国内外の調査に快く応じて頂いた内外の企業、政府関係者の方々に、心からお礼を申し上げたい。また、樋泉克夫氏（愛知県立大学教授）、笠井利之氏（立命館大学教授）、堂本健二氏（滋賀大学教授）、多田羅徹氏（アジア開発銀行研究所所長特別アドバイザー）には、お忙しいなか、研究会の講師としてお越し頂き、メコン地域に関する広範な知見をご教示頂いた。タイの国家経済社会開発庁（NESDB）、ベトナムの世界経済政治研究所（IWEP）、ラオスの国家経済研究所（NERI）、カンボジア大学の各スタッフの方々には、現地の共同研究機関としてご支援頂いた。さらには、昆明での現地調査に際しては、畢世鴻氏（雲南大学専任講師）のご支援を受けたほか、桃木至朗氏（大阪大学大学院教授）には、お忙しいなか、第5章の地図の遺跡の位置関係のご確認をして頂いた。これら

の方々にも、心からお礼を申し上げたい。また、研究会のオブザーバーとして参加して頂いた福地真美氏、高濱航氏、石川俊介氏、茂木誠氏（以上、経済産業省）、同じくオブザーバーとして参加、ないしは各国の専門家として様々な点でご教示頂いた研究所所内の各氏、さらには多忙ななか本書を執筆して頂いた執筆者の方々、査読で有益なコメントを頂いた方々、そして出版・編集でご尽力頂いた(株)風行社の代表取締役の犬塚満氏と伊勢戸まゆみ氏に、感謝の意を表明したい。

なお、2005年7月に先述のメコン河第2国際橋の建設現場で、雨期の増水した河川に転落して、邦人を含む8名の方が亡くなっている。これらの方々のご冥福を心からお祈り申し上げたい。本書が読者の方々の少しでもお役に立つことができれば、本望である。

2005年11月30日 編者記す

## 目 次

アジア研選書の刊行にあたって .....	[iii]
まえがき .....	[v]
略語一覧 .....	[xix]
<b>序 章</b> メコン地域開発——本書の視点と構成 .....	石田正美 [1]
はじめに	1
第1節 本書の視点	2
第2節 本書の構成	6

## 第 I 部 メコン地域概観

<b>第 1 章</b> メコン河とメコン地域 .....	石田正美 [12]
はじめに	12
第1節 メコン河について	12
第2節 メコン地域について	18
第3節 メコン地域における様々な経済協力の枠組み	28
おわりに	36
<b>第 2 章</b> メコン地域における開発協力と国際関係 .....	小笠原高雪 [41]
はじめに	41
第1節 アジア開発銀行 (ADB)	42
第2節 日本	46
第3節 タイ	48
第4節 中国	51
第5節 ベトナム	53
第6節 ASEAN (マレーシア、シンガポール)	56
おわりに	58
<b>第 3 章</b> メコン地域の交通インフラ .....	吉田恒昭・金広文 [63]
はじめに	63

第1節	GMS交通インフラを考察する基本的視座	64
第2節	歴史的にみるメコン地域の交通インフラ	65
第3節	GMSプログラムにおける交通インフラ整備	74
まとめ		82

## 第II部 CLM諸国の人的資源

第4章	カンボジアの人的資源開発——現状と課題	廣畑伸雄・竹内潤子 [90]
-----	---------------------	----------------

はじめに	90
第1節	社会・経済の概況と人口動態 91
第2節	教育と人的資源開発 95
第3節	労働市場と産業人材育成 101
おわりに	109

第5章	ラオスの社会・経済概況と人材開発問題	小山昌久 [115]
-----	--------------------	------------

はじめに	115
第1節	ラオスの概況 116
第2節	市場経済移行後の経済発展と制約要因 118
第3節	ラオスの産業構造の特徴 122
第4節	人口の地域分布、労働市場、人材開発 126
第5節	貧困削減とインフラ整備 132
おわりに	136

第6章	ミャンマーの人的資源	安藤智洋 [138]
-----	------------	------------

はじめに	138
第1節	総人口と地域分布 139
第2節	所得 144
第3節	教育・人材育成 147
第4節	労働市場 151
おわりに	162

## 第III部 CLM諸国の産業発展の可能性

第7章	カンボジアの産業の現状——縫製業を中心として	初鹿野直美 [168]
-----	------------------------	-------------

はじめに	168
------	-----

第1節	カンボジアの貿易・直接投資と産業	169
第2節	縫製業の現状	173
	おわりに	184

**第8章** ラオスの木材加工産業——持続的な発展の可能性  
 ..... 山田七絵 [192]

	はじめに	192
第1節	メコン地域の森林と林業	193
第2節	ラオスの森林政策と商業用伐採	196
第3節	ラオスの木材加工産業と関連政策	202
	まとめと提言	210

**第9章** ミャンマーの産業発展の可能性と課題 ..... 井田浩司 [218]

	はじめに	218
第1節	ミャンマーの産業発展の可能性	219
第2節	ミャンマーの外国投資受け入れの経緯	222
第3節	ミャンマーの産業発展に向けた課題	227
第4節	ミャンマーの外国援助受け入れ状況	238
	おわりに	243

**第IV部 タイ・ベトナム・雲南省の役割**

**第10章** タイの地域開発政策と近隣諸国との経済関係  
 ..... 恒石隆雄 [248]

	はじめに	248
第1節	タイの地域開発政策	249
第2節	タイの近隣諸国政策	255
第3節	近隣諸国との経済関係	264
	おわりに	275

**第11章** 大メコン圏経済回廊とベトナム経済開発 ..... 石田暁恵 [281]

	はじめに——ベトナムのメコン地域開発への関わり方の変化	281
第1節	GMS諸国との経済関係の変化	283
第2節	北部経済回廊と経済開発の方向	291
第3節	東西経済回廊と中部開発	293
第4節	南部経済にとってのGMS南部経済回廊建設計画	298
	おわりに	301

第12章 雲南とメコン地域諸国との経済協力	湯家麟・楊曉輝・張光平・于曉剛 [305]
-----------------------	-----------------------

はじめに	305
第1節 雲南とメコン地域諸国との経済関係史	305
第2節 第二次世界大戦後の経済関係	311
第3節 雲南の民間企業による経済協力	316
第4節 政府間レベルの経済協力	320
おわりに	329

## 第V部 総括

第13章 メコン地域開発の展望と課題	石田正美 [336]
--------------------	------------

はじめに	336
第1節 メコン地域開発への期待	337
第2節 メコン地域開発を進めるうえでの問題点と課題	340
第3節 今後の展望と課題	351
あとがきにかえて	356

資料 CLMV 諸国への外国投資	[361]
------------------	-------

### 索引

地名索引	[376]
その他の固有名詞索引	[385]

執筆者一覧	[389]
-------	-------